

## ⑧ How to Realize Jazz Feelings—A Logic Programming Approach—

K.Hirata(NTT Software Lab.,日本)

### 発表要旨

この論文は、ジャズ音楽を生成する計算機音楽システムについて述べてある。特に、コード進行が与えられたとき、そのコードを実現する音のパターン(fingering patterns)を生成するツールについて述べる。LPC88と呼ばれるこのツールは、現在開発中のICOToneシステムの1つのツールである。LPC88は、ジャズのセオリー・ヴォイスングの知識等が論理プログラムの形で宣言的に書かれている。LPC88は、ユーザーとインタラクティブに対話をしながら解を1つずつ生成する。LPC88はESPで記述されているPSI上に実装されている。オブジェクトオリエンテッドというESPの特徴により、様々な知識間に十分なモジュール性を実現することもできている。LPC88を作成した際の経験に基づいて、ジャズ音楽の知識の表現上、ユーザインターフェース、及び実装についてここでは論ずる。

### 質疑応答

質問：LPC88が生成するfingering patternにユーザが満足できなかったときには、どこまで遡って別の解を見つけに行くのか。スタートポイントまで遡るのかあるいは、階層的になっている知識のどこまで遡るのか。

回答：LPC88はまず全ての解を見つけに行く。そしてユーザが自分でいいと思ったものを選択する。そういう実行になる。LPC88は個人個人の個性についての知識は持っておらず、一般的なジャズの知識だけを持っている。したがって、実行の流れは簡単なものになる。